

内水面支場 News !

北浦で混獲された カライワシ

令和3年11月16日 北浦の鹿行大橋付近にて

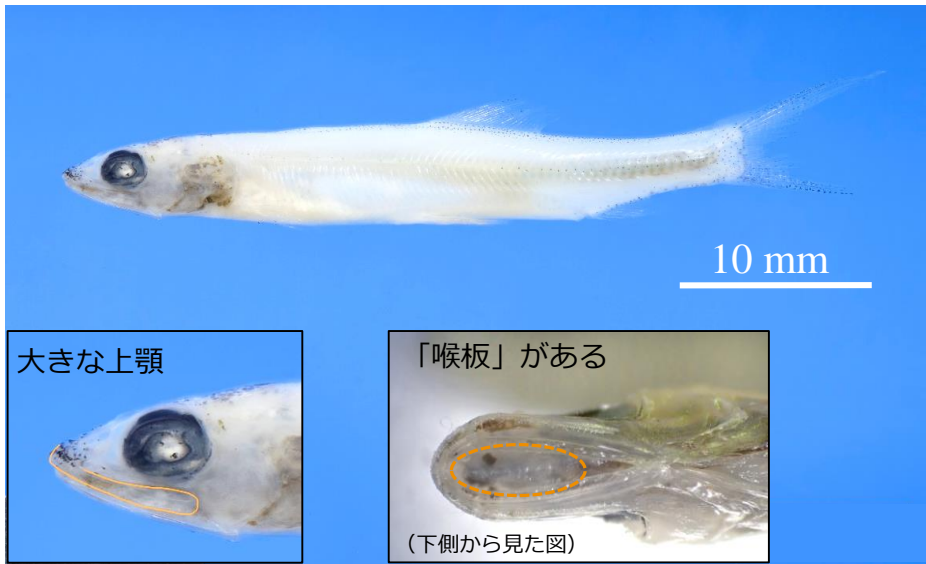


写真 ホルマリン固定後のカライワシ標本とその特徴
(標準体長 35.2 mm ; 内水面支場に保管)



図 採集場所

カライワシ *Elops hawaiiensis* はカライワシ目カライワシ科に属し、80 cmほどに成長する海水魚です。成魚はインド洋—西太平洋の暖かい海の表層に生息しますが、幼魚のうちには汽水域に侵入し、時には淡水域にまで遡ります。

そんなカライワシが令和3年11月16日、北浦においてワカサギやシラウオに混じりトロール網に入りました(写真)。場所は北浦北部の鹿行大橋付近でした(図)。本種の太平洋側における分布は茨城県が北限です。北浦における記録はとても少なく、70年ぶりに採集された個体が近年報告されています(大森, 2019)。

本種の生態から、この個体は小さなうちに黒潮に乗って利根川河口まで辿り着き、北浦の北部まで遡上したと考えられます。せっかく辿り着いたものの漁獲されてしまったわけですが、獲られずとも南方生まれの彼(彼女?)に、北浦の寒い冬は越せなかったことでしょう。はるか長い旅路に敬意を払いつつ、珍しい記録の証拠として標本になってもらいました。

(内水面資源部 外山 太一郎)